令和８年度中学校　国語

国語に関する調査の結果にみられる特徴と現状分析

◇「情報の扱い方に関する事項」に係る出題において、情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことや、「話すこと・聞くこと」に係る出題において、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることについて、よくできている。
◆「言葉の特徴や使い方に関する事項」に係る出題において、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

〇昨年に引き続き、漢字を書くことについては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うように指導することが大切である。

情報の扱い方に関する事項

〇情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことがよくできている。引き続きマッピングなどを活用し思考の整理や情報の関係性を図に表すような授業づくりを行う。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

〇言語活動を行う際には、何のために、だれを対象に、どのような状況で話すのかを具体的に考えさせ、検討した内容がそれらに合っているかを判断することが必要である。目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討するなどの言語活動の機会を意図的・計画的に設定し指導を重ねることが大切である。さらに、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめるような授業づくりも有効である。

書くこと

〇段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫して書いたり、校正の段階で、表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだしたりする学習活動を取り入れる。ICT を活用して文章を書く時には、学習状況を振り返れるように、コメント機能などを活用して、訂正した理由を挙げたり、整えた箇所を消さずに残したりすることも効果的である。

読むこと

〇文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることや、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることが出題の趣旨となっていることから、文脈を読み、内容を理解することにとどまらず、中心的と付加的、筆者の考えと自己の考えといった、俯瞰して物事を思考する力を身につけさせたい。指導の際には、表現の工夫や展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果について考える学習活動を協働的な学習に取り入れ、多面的に文章を読ませたり、筆者と自己の考えを対比させながら読む活動が考えられる。文章の構成や展開の効果を生徒自身が実感できる場面を意図的に設けることが大切である。



我孫子市マスコットキャラクター
手賀沼のうなきちさん